

成績評価における客観的な指標の算出方法及び卒業の認定に関する方針

1. 授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要

(1) 講義科目の評価について

出席率70%以上を評価の対象とし、下回る場合は補習にて不足分を補充の上評価（再試験）する。

出席率50%未満の科目は再履修となり、履修は認定されない。

(2) 演習・実習科目の評価について

出席率75%以上を評価の対象とし、下回る場合は補習にて不足分を補充の上評価（再試験）する。

実習科目における課題は講義科目における筆記試験・レポートと同等のものである。

出席率50%未満の科目は再履修となり、履修は認定されない。

2. 客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要

評価の指標は以下の通り5段階とし、評定2以上を合格とする。

5：100～90点（大変よい）

4：89～75点（よい）

3：74～60点（ふつう）

2：59～45点（努力を要す）

1：44～0点（劣っている／不合格）

※学年ごとに成績分布を数値化し、分布状況を把握している。

3. 卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要

卒業については、以下の基準に基づき学年末に卒業認定会議を行い、校長がこれを認定する。

(1) 卒業単位数

2年間の必修科目の合計単位数が各コースの定める単位数であること。

(2) 成績

修業年限の必修全科目の履修

(3) 納付金等

学校納付金等を学園の定めた期間内に納入している者